

令和5年度第5回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和5年8月19日（土） 10時～12時

テーマ：水草を観察しよう

場 所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設（いきもののにわ周辺）

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：霞ヶ浦には、かつては多くの水草が生息していました。現在は、絶滅危惧種としてわずかに残っている種もありますが、そのほとんどが消滅してしまいました。水草は環境の変化に敏感で、湖岸の改変や水質の悪化が原因と考えられています。

霞ヶ浦環境科学センターの野外施設である「いきもののにわ」では、霞ヶ浦に生息していた水草を育成し、自然観察や環境教育に利用できるようにしています。この観察会では、これらの水草を観察し、霞ヶ浦の環境を考えるきっかけとします。

参加者：19名

担当職員：5名

パートナー：7名

結 果：この観察会では、センター敷地内のいきもののにわ周辺で、水草の観察を行いました。水草とは、浮遊植物（根を張らず水に浮いている植物）、沈水植物（水中に沈んでいる植物）、浮葉植物（根を土中に張り葉を水面に浮かべている植物）、抽水植物（水中から茎や葉を水上に出している植物）の4つの生活形をもつ植物をいうことが多いですが、今回は、湿性植物（湿ったところに生える植物）を含めて水草の観察を行いました。

プリントには、65種の植物のリストを掲載しましたが、このうち23種が絶滅危惧種に指定されています。いかに水草が絶滅の危機に瀕しているかがうかがえます。

観察会では48種の水草を観察しました。以下に観察した主な植物と観察のポイントを記録します。

ハンゲショウ・・・ドクダミ科の湿性植物。半夏生（今年は7/2）のころ、花序の下の葉が白くなって虫を呼ぶ。

ミソハギ・エゾミソハギ・・・ミソハギ科の湿性植物。両種は、葉の形、茎へのつき方で見分けることができる。

ミズトラノオ・・・シソ科の湿性植物。虎の尾のごとく紫の穂状の花をつける。

ショウブ・・・ショウブ科の抽水植物。ショウブというと普通アヤメ科のハナショウブを連想する人が多いと思うが、端午の節句に菖蒲湯に使うのはこのショウブ。ハナショウブと葉は似るが、いい香りがして、花は目立たないこん棒状。

コウホネ・ヒツジグサ・・・スイレン科の浮葉植物。コウホネは抽水植物になる。両種とも尾瀬の湿原にもある植物（尾瀬ではオゼコウホネ）。コウホネは抽出葉と沈水葉の違いを観察できた。ヒツジグサは、未の刻（午後3時ごろ）に花が咲くのでこの名前がある。

アサザ・ガガブタ・・・ミツガシワ科の浮葉植物。両種とも花は午前中に咲いて午後にはしぼんでしまう一日花。アサザは10数年前から霞ヶ浦では激減した。異形花柱性という仕組みをもち、長い雌しべと短い雌しべの花同士でないと受粉できないという。

オニバス・・・スイレン科の浮葉植物。県内では野生のオニバスはほぼ見られなくなった。葉の表裏のびっしり生えたトゲ、紫色の葉の裏などを観察した。

ジュンサイ・・・ジュンサイ科の浮葉植物。葉に切れ目がなく、盾状についているので、ほかの植物と区別できる。若い葉はジュンサイ特有のヌルヌルがある。

サンショウモ・・・サンショウモ科の浮遊植物。シダ植物。サンショウの葉に似た形からこの名前がついた。

ウキクサ・コウキクサ・・・サトイモ科の浮遊植物。1枚の葉から複数の根が出ているのがウキクサ、1本の根が出ているのがコウキクサ。

ヤナギモ・ササバモ・・・ヒルムシロ科の沈水植物。ヒルムシロ科の花をササバモで観察した。花は水面から短い棒状に突き出す。

ヒルムシロ・・・ヒルムシロ科の浮葉植物。ヒルムシロ科の植物は沈水植物が多いが、ヒルムシロは普通葉を水面に浮かべる浮葉植物。

オオカナダモ・コカナダモ・クロモ・・・トチカガミ科の沈水植物。節から複数の葉が輪生する。コカナダモは3枚、オオカナダモとクロモは普通4枚以上。オオカナダモが最も大

きく、クロモは折れやすい、などの特徴で見分ける。オオカナダモとコカナダモはアメリカ大陸原産の外来種。両種とも日本で見られるのは雄株のみで、有性生殖は行わない。

トチカガミ・・・トチカガミ科の浮遊植物。葉の裏に特有の浮袋をもっているが、葉が水上に突き出ると浮袋がなくなる。

セキショウモ・・・トチカガミ科の沈水植物。葉がショウブ科のセキショウに似ているのでこの名がついた。雌花は長いらせん状の柄をもち花が水面に浮かぶような仕組みになっていて、水面に浮いた花粉で受粉する

マツモ・・・マツモ科の沈水植物。水槽の水草としてよく使われる植物。系統分類における位置づけが確定していない植物である。

ホザキノフサモ・・・アリノトウグサ科の沈水植物。同じ科の水草にフサモ、オオフサモがある。オオフサモは霞ヶ浦でもはびこっている特定外来生物。フサモとホザキノフサモはよく似ていて花が咲かないと見分けが難しい。

ウキヤガラ・・・カヤツリグサ科の抽水植物。しばしば湿地一面を覆って優占種となる。地下茎にこぶができて数珠のように連なるのが特徴。

フジバカマ・・・キク科の湿性植物。秋の七草のひとつ。乾燥させるとクマリン臭のいい香りがする。

タコノアシ・・・タコノアシ科の湿性植物。河川敷などの湿地で、工事や増水などのかく乱があると発生する。秋に紅葉すると、果実の様子がタコの足を連想させる。

デンジソウ・・・デンジソウ科の抽水植物。浮葉植物の形もとる。シダ植物。四葉のクローバの様な葉が田の字に見えるのでデンジソウという名がついた。

ガマ・コガマ・ヒメガマ・・・ガマ科の抽水植物。ガマのなかま3種を比べながら観察した。フランクフルトソーセージの様な穂と雄花のついた跡の間に隙間があるのがヒメガマ、ないのがガマとコガマ。ガマとコガマは大きさを区別するが、紛らわしい場合は花粉の形を調べる。4つの花粉が連結しているのがガマ、1個ずつ離れているのがコガマ。

ミクリ・・・ミクリ科の抽水植物。実が栗のいがのように見えるのでミクリ。ふつう葉は水面上に出るが、沈水であったり、流水中で水面上をたなびいていたりすることがある。

オモダカ・ヘラオモダカ・サジオモダカ・・・オモダカ科の抽水植物。オモダカ科の3種の植物を比べながら観察した。矢じり型がオモダカ、細長い葉がヘラオモダカ、やや丸い葉がサジオモダカ。

ハッカ・・・シソ科の湿性植物。外来のハッカの仲間がしばしば湿地にはびこっているが、ハッカは日本に自生する植物。大変いいハッカ臭がする。

ヒシ・・・ヒシ科の浮葉植物。水面から持ち上げて観察すると、葉のつけ根にある浮袋、花が終わって膨らみ始めた若い果実などが観察できた。

イヌタヌキモ・・・タヌキモ科の沈水植物。食虫植物。葉についた袋はミジンコなどのプランクトンをとらえる捕虫のう。

イグサ・コゴメイ・・・イグサ科の抽水植物。外来種であるコゴメイは霞ヶ浦でも増えている。イグサに似ているが、花序が大きいこと、茎の断面を見るとはしご上の段々が見られることで区別できる。

ヨシ・セイタカヨシ・・・イネ科の湿性植物。ヨシは抽水植物でもある。セイタカヨシは霞ヶ浦のやや乾いた湖岸によくみられる。セイタカヨシはヨシに比べて、背が高い、茎の途中から枝を出すように茎が分けつする、葉がやや短く垂れることはない、などで区別できる。

マコモ・・・イネ科の抽水植物。霞ヶ浦ではやや穏やかな河口付近や蓮田にみられる。アメリカの近縁種は果実がワイルドライスと呼ばれお祭りなどで使われるという。やわらかい地下茎は、越冬するハクチョウなどのえさになる。

第5回霞ヶ浦自然観察会



開会式と事前説明



コンテナで栽培している水草を観察



ガガイモの花のつき方を観察



トゲだらけのオニバスの葉の裏を観察



上池周辺の湿地で水草を観察



上池のコウホネを観察



オニバスの池でヒシやオニバスを観察する



イヌタヌキモの池でイヌタヌキモを観察